

第5学年 社会科の実践

1 単元名 「未来を支える食料生産」 3 これからの食料生産

2 単元目標

- 我が国の食料生産現状について、国民生活との関連を踏まえて理解するとともに、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 我が国の食料生産が国民生活に果たす役割や食料生産に関わる人々の働きを多角的に考える力、課題を把握してその解決に向けて考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- 我が国の食糧生産について主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚を養う。

3 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの願いや思いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

高学年ブロックテーマ 「仲間への理解、自立する自分」

- ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切に作る姿
- ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴くこと」については、誰かが話しているときは、静かに話を聞くことができる。さらに学びを深められるように、黙って聴くだけでなく、自分の考えと比較しながら聴いたり、分からないことは聴き返したりと自分の考えが変容したりや強化されることでの学びの楽しさを感じられるよう声をかけてきている。「話すこと」については、「相手に自分の考えを理解してもらおう！」という意識をもって伝えられるようにしている。コロナウイルスの影響で、小グループで話すことができないこともあり、自分の考えに自信がもちにくいところもある。しかし、考えがうまく伝えられなかったとしても「こういうことが言いたいんだよね。」と友だちの言いたいことを理解しようとし、温かく聴くことができる雰囲気さをさらに高めていこうとしているところである。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

代表委員会の話し合いやクラスの目標決め、係活動のイベントなど多くの場面で自分たちで話し合い決めていく機会は意識的にたくさん設けてきた。議長を立て、自分たちで話し合いの流れを整理しながら進めていく中で、学校のために、学級のためにと一人ひとりが考え、聴き合って参加しなければならないという意識が高まってきているように思う。考えがなかなかでないときは、「少し時間とらない？」「少し周りとは相談しない？」と進んで友だちと関わり合おうなど自分たちでアクションする姿が見られるようになってきた。また、何でも肯定ばかりなところが多いが、「その考えも良いけど、でもこういう理由で私はこう思うよ。」「でもさー私はこう思うよ。」と相手の意見を大切にしながら、自分の思いを話せる子も出てきた。それが普段の授業にさらに生かされるよう「どうしても解決したい。」「自分一人ではどうにもならない。」という学習場面を設定できるようにしてきている。しかし、課題が難

しすぎても学習面に困難さがある児童はついていけなくなってしまう。そのため、みんなが参加できる土台を用意した上で、話し合えるような学習課題になるよう努力している。今回は社会の学習でひびき合いの姿を目指す。様々な考えが出てくるであろう課題の中で、全部いいねで終わってしまうのではなく、自分はどのような理由でそう考えたのかをみんなに伝えられるようにしたい。そして、考えをより深め、みんなで追究していく姿を目指したい。

4 単元と指導について

<単元について>

本単元は、学習指導要領5年生の内容(2)のイ(ア)「生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。」に基づいて設定されており、米作り・水産業など我が国の食料生産に関する学習のまとめにあたる。私たちの現在の豊かな食生活を考えたとき、輸入食料を抜きにして考えることは出来ない。我が国の食料自給率は、戦後直後の1946年度(昭和21年度)は88%だった。ところがゆるやかに下がり始め、平成に入ると50%を割り込み、2000年代は40%前後でほぼ横ばいに推移している。令和2年度は37%と過去最低に並んでいる。政府は2025年には45%まで引き上げることを目標に掲げているが厳しい状況にある。今後世界的に人口が増えて生産が追いつかなくなったり、世界中で見られる異常気象や天候不順、あるいは国際情勢など何らかの理由で外国からの輸入が途絶えてしまった時、我が国の食生活は大きな影響を受けてしまう。日本は複数の国・地域と貿易をしているため、一部の国からの輸入が途絶えたとしても食糧危機に陥る可能性は低く、地球規模での食料不足も今すぐの問題ではない。しかし、このまま自分には関係ないと見過ごすことはできないであろう。こうした日本の食料生産に関する様々な問題を知り、一消費者として食料生産への問題意識をもち、様々な立場からできることを考えていく必要がある。

児童はこれまでに学習した「米作りのさかんな地域」「水産業のさかんな地域」の単元で具体的な事例を通して、我が国の食料生産の様子や特色を学習してきた。米の生産や水産業が国民の食生活を支えていることや、従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについても理解している。また、米の生産量や消費量の減少、それに伴う従事者の減少や耕作放棄地の増加などの問題点についても学んでいる。そこで本単元では、生産者と消費者のつながりの大切さを理解し、これからの食料生産のあり方を考えられるようにしたい。輸入に頼っている今の食料生産をどうしていけばよいのかを考えていくことは、児童にとって身近ではなく、自分の問題として捉えにくい大きな問題である。しかし、日本の現状や今後の世界の状況をグラフや資料などから読み取ることで、食料生産が自分たちの問題であることをしっかりと捉えられるようにしていきたい。輸出入に関しては、TPP問題や他国との貿易のバランスなど社会情勢も反映していかなければならないことが多々ある。しかし、本単元では深くは踏み込まず、初めての食料問題の出会いとして、消費者として食に対して少しでも意識を変えていけるようにし、今後中学校・高校で学んでいく学習の素地となる単元として位置付けたい。素地を身につけることで、今後様々な社会問題も絡めて自分たちの食生活について考えていくきっかけとなる単元になるだろうと考えた。

<指導について>

児童は、豊かな食生活を送っており、今後食料面で困ることが起きるとは想像もしていない。また、

米作りや水産業の学習から、日本は農業でも水産業でも様々な工夫や努力で多くの生産量があると考えている。そんな児童に「食料生産が人口増加に追いつかない」という資料を提示することで、世界が今後さらに人口が増加していくこと、農作物を栽培する環境が破壊されつつあることに気付かせる。世界の人口が今後増えていく中で、食料危機が訪れるかもしれないことを知っても、食べ物が溢れている日本には無縁のことだろうと感じる児童も少なくない。しかし、日本の食料自給率のグラフから食料の輸入状況を知り、今後様々な要因でその輸入が途絶えてしまうかもしれないと知れば、「こんなに輸入していたんだ!」「このままで大丈夫なのかな?」と感じるであろう。食料は、その時の気候などにより生産量は大きく変化し、また国の情勢によっても輸出できる量は変化する。昨年度は、コロナウイルスの影響で都市封鎖されたことで一部の食品が品薄になってしまう国々も実際にあった。そうした何らかの理由で輸入がストップしたら日本はどうなるのかを考えることで、「このまま輸入に頼っていてはいけないのではないか。」「自給率を上げていかなければならないのではないか。」と自然に感じるのではないと思う。そのため、児童にとって我が国の食料問題については、みんなで考えていきたい、知りたいと思える課題になると考えている。日本の食料自給率については、全員が共通理解をもって話し合い活動に参加できるよう、グラフ・資料を精選し活用しておさえしていく。現状をきちんと知り、疑問や気付きが出てくる中で、「みんなはどんな考えをもっているのだろう。」「少しでも輸入に頼らないようにするには、他にどんな手立てがあるのだろう。」という思いが生まれると考える。友だちの意見を「どうしてそう考えたのか。」考えながら聴くことで、「なるほどね!」という思いを持つことができ、難しいからこそ、一人では得ることの出来ない学び合いからの充実感を味わうことができると考える。食料自給率を上げていくためには、生産者・消費者の立場はあるが、「日本で食料を作ったらいい。」という単純なものから、「農業に就く人を増やす。」「科学技術の力で生産量をあげる。」「耕地放棄地を使う。」など具体的にどんな方法があるのかを進んで調べていくと考える。その際一人ひとりがきちんと考えを持てるよう、資料・グラフを用意し、苦手な児童に対しては個別に声をかけていく。

ノート指導については、まず自分の考えをノートに書き、安心して発言につなげていけるようアドバイスを書き込み全体共有につなげていく。ただ黒板をうつすのではなく、友だちの考えのメモの取り方、構成の仕方も上手にまとめている児童のノートを例に取り上げながら、力を付けられるようにしていきたい。予想→調べ学習→話し合い→ふりかえりのサイクルを繰り返すことで、自分の考えが強化されたり、変容されたりする課程を見取っていけると考える。本時に子どもが解決したい問題は、**日本の食料自給率はなぜ変わらないんだろう?**である。食料自給率を少しでも上げていくためにできることを調べ話し合った子どもたちは、出し合った事柄が今までの米作りや水産業で、すでに生産者が取り組んでいることや消費者として自分たちも知っている情報であることに気付くであろう。そして、すでに取り組んでいるものもあるのに、どうして食料自給率は上がらないのだろう?と疑問に思うのではないかと**前時までの話し合いで、少し第三者目線で方法を出し合っていた子どもたちが、一人ひとりの問題として意識して自分たちにできることを考え、どうしていけば良いのかを話し合うことを通して、これからの食糧生産や食生活のあり方についての考えを深めていく姿をひびき合いの姿**とする。食料自給率を上げるためには、誰かがやってくれたらいい、自分に出来ることはない諦めてはいけない。この学習を通して、小さなことであっても、一人ひとりの行動や意識の変化が消費を拡大させ、食料自給率を上げていくための力になるという思いを持てる様にしたい。生産することも消費することもどちらも大切だということに気付き、少しでも食に対する意識を変えていけたらと考える。

5 単元構想

単元のねらい

食料自給率の低さ、輸入などに伴う課題を把握して、その課題解決に向けて多角的に考え、話し合う中で、これからの食料生産のあり方について自分なりの考えをもつことができるようにする。

2050年世界の人口が増えるらしい…①

どんなことが困るだろうか。

- ・どうなるのかな？ ・家を増やさないといけないから、自然が壊される
- ・土地がなくなる ・ゴミが増える ・環境破壊が進む ・売り物がすぐなくなる
- ・感染症が増える ・医療の手が足りない ・農業の場所が足りなくなる
- ・食べ物が品薄になる → 道路が混雑する ・食べたいものがすぐに手に入らなくなるかも
- ・生産量が減って大変だ！ ・米は余っているから大丈夫じゃないかな？ ・米だけは嫌
- ・日本は増えないから関係ないんじゃない？ ・食べ物で争いが起きそう

・人口増加のグラフを用意し、視覚的に増加していくことが分かるようにする。
 ・「食料生産が人口増加に追いつかない」という記事を提示する。
 →今後の食糧生産について意識できるようにする。
【食料危機ってなんだろう(文研出版発行)より】
 ・需要と供給の言葉の意味をおさえる。(知識・理解)

・輸出入の用語について確認する。

日本も食料危機になるのかな？②

(日本は大丈夫派)

- ・日本は人口が減っているし、大丈夫 ・米は余っているってやったよね
- ・フードロスがあるくらいたくさん食べ物無駄にしているんだよ

(日本も大変なんじゃないか派)

- ・スーパーで外国産のものをよく見るから影響受けそう ・結構輸入してそう
- ・輸入って？ ・輸入が多かったらやばいんじゃない？
- ・どれくらい輸入しているのかな？

日本はどれくらい食料を輸入しているのかな？③

- ・米は100%日本で作って食べているんだね。
- ・消費量が減って余っているからね。 ・大豆が7%！？
- ・豆腐とかしょうゆとか日本のイメージなのに… ・なんで自給率低いの？
- ・肉好きだけ9%だからほとんど外国産？
- ・オーストラリア産とか売っているもんね。 ・小麦もほぼ輸入だ
- ・和食より洋食の方が輸入だね ・洋食の方が好き
- ・日本の物だけだと食べたいものが食べられなくなる ・他の国は？
- ・輸入できなくなると日本も困るよね 輸入できないとかある？
- ・自分の国を優先するよね ・品薄になれば輸入できないかも
- ・これからもコロナ続きそうじゃん ・自給率はずっと低いのかな？
- ・だんだん下がっている。何でだろう？
- ・人口増えればつくのはずだよ。何で下がるの？

・コロナウイルスの影響でロックダウンし
 品薄になったコラムを提示する。

・国産品だけで作った場合の洋食、和食の絵を提示し、そこから読み取れること、気付いたことを発表する。**【態】【思】** (ニッポン食べもの力見つけ隊より)
 ・どの食品がどれくらい輸入しているのかを確認し、日本が多くを輸入に頼っている現状を知る。**【知】**
 ・食料自給率という言葉の意味をおさえる。
 →自分で食べるもののうち、自分の国でどれくらい賄えているか。
 ・日本の食糧自給率の変化のグラフから分かることを読み取る。
 ・輸入量の増加を分かりやすくするために帯グラフにして提示する。

・教科書から、食料自給率が下がっていった理由を読み取る。

何で食料自給率は下がっているのかな？④

- ・和食より洋食を食べているからじゃない？ ・米よりパンが増えた ・パンは小麦だから輸入だよ ・人口が増えて足りなくなってきたんじゃない？
- ・食生活の変化が大きいと思う ・みんなの食べたいものが外国で作っているんだよ ・日本で作れば？ ・気候が合わないものとかあるんじゃない？
- ・跡継ぎがいなくてつくれる人だよ ・外国産が安くてそっちを買うんじゃない？ ・このまま輸入ばかりで大丈夫？ ・輸出できないってなったら？
- ・ずっと輸入しているんだから、何か輸入のいいところがあるんじゃないの？ ・急にとめられないよね。

輸入のメリット・デメリットって何？⑤

(メリット)

- ・食べたいものがすぐ手に入る ・米と野菜だけの生活では無理だよ
- ・外国産の方が安い

(デメリット)

- ・他の国で何かあって急に輸入がストップしたら困る
- ・外国産は安全なものかな？ ・日本の農産産がもうからなくなる
- ・フードマイレージが高くなる。

・教p110、111より
 輸入について長所、短所、消費者、生産者など多角的な視点で捉えられるようにすることで今後の課題解決につなげる

- ・やっぱり、何かあったら困るね。 ・つくれるものもあるけれど、輸入を少しでも減らして、自分の国でなんとかしたいね。
- ・急になくすと、他の国は困らないかな？ ・じゃあ少しずついいんじゃない？

輸入を少しずつ減らしていくにはどうしたらいいのかな？⑥⑦

(生産者)

- ・安心、安全をアピールして売る ・若者に農家の良さをアピールする
- ・耕作放棄地をつかう ・家庭菜園 ・家畜のえさを国産にする
- ・科学の力をつかう (クローン、遺伝子組み換え、温室栽培)
- ・小麦の品種改良をして日本でも作れるようにする

(消費者)

- ・国産のものをなるべく買う ・売れたらもっと作るもんね
- ・地元のものを買いたいね ・フードマイレージも高くないから環境にもいいね ・昔は自給率良かったから、和食を増やしたら？
- ・米の消費量が減っているから、米粉を使いたい
- ・食品ロスを減らす ・必要なものだけを買う

(学習感想より)

- ・色々な方法がありそうだね。 ・お米の時もそうだったけど、生産者さんもいろいろ考えているんだね。
- ・こんなにやっているのに、自給率は何で変わらないんだろう。

・自作の資料コーナーを用意し、考える手立てとする。
 ・自分の考えた答えの根拠となる図やグラフなどを探し、どうして輸入に頼らないことにつながるのかを明確にして話せるようにする。

日本の食料自給率はなぜ変わらないんだろう？⑧(本時)

(生産者)

- ・農業で働く人が少ない ・跡取りがいない ・小麦は広い土地がないと無理
- ・品種改良は時間がかかって結果がまだ出ない
- ・新しいことにチャレンジするための費用がない
- ・ローンや遺伝子組み換えは、安心安全かあやしい

(消費者)

- ・やっぱり安いものを買ってしまうから ・食生活が洋食だから
- ・米粉で作れることをあまり知らないんじゃない？
- ・なくなったら困るから買いためするんだよ。 ・好き嫌いでフードロス
- ・自分ひとりやってもって思っで関心がないんじゃない？

(その他)

- ・輸入を減らすとほかの国との関係があるんじゃない？



どうしていけばいい？自分たちにできることは？

- ・フードロスを減らすために、無駄に買ったり、給食を残したりしない
- ・買い物で国産、地元のものを買うように意識する
- ・米を消費するようにする ・米粉を使った料理を広める
- ・生産者の努力をもっと広める(新聞記事、ポスターなど)

食料生産についてもっと調べてみよう。⑨

日本の食料生産について分かったことをまとめよう⑩

- ・日本はどんなものを輸出しているのか。
- ・TPPという言葉がニュースで聞いたけど、どういう問題なんだろう。
- ・関税ってなんだろう。
- ・小田原で食料生産について取り組んでることはあるのかな？
- ・食の問題についてもっと調べて、みんなで伝え合おう。

- ・輸出にも目を向け、貿易について考えていけるようにする。その際TPPについても触れるようにする。
- ・他国との関わりも含め、これからの我が国の食料生産の将来的なあり方について考えようとしている。【熊】

6 本時について

本時の目標「日本の食料自給率はなぜ変わらないのか。」について話し合うことを通して、自分なりの考えをもち深めることができる。

学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
<p>○生産(作ることに)に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農家を増やす ・農地を増やす ・クローン技術 ・遺伝子組み換え ・品種改良 <p>○消費(食べることに)に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和食の推進 ・食品ロスを減らす ・国産の物を食べる ・地産地消 ・米、米粉の消費 <p>食料自給率はなぜ変わらないのか？</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生産者 やれることはやれている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の働き手がすくない。 ・品種改良は時間がかかる。 ・新しいことを始めるのにお金がかかる。 ・場所がない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>消費者 やれることは分かっている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安いものを買う。 ・食生活が洋食多い。 ・米粉があまり知られていない。 ・余分に買って余らせている。 ・好き嫌いでフードロスしている。 ・食に関心が低い。 </div> </div> <p>自分たちにできることは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物で国産のもの地元のものを意識して買う。 ・米を消費していく。 ・パンなら米粉 ・食べ残しを減らす。 ・食料自給率の現状を広める。 ・生産者の努力を広める。 ・将来農業や漁業に関わる職につく。 <p>○今日の授業のふりかえりをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の足跡を残し、考えをもっとときや話し合いの時に取り返ることができるようにしていく。 ・前時までの話し合いを参考にしながら、自分事として捉えたときどう考えるのか理由や具体的な方法を出しながら話し合うことができるようにする。 ・どうして変わらないのかを考えた上で、自分たちにできることを考えていく。 ・互いの考えで分かりにくいところは、聞き合ったり、フォローし合えるように促す。 ・生産者とは消費者とは誰を指すのかを改めて確認する。 ・生産も消費もどちらも大切で、その中には自分で行動できるものもあることに気付けるようにする。 ・出てきた考えをもとに自分たちに出来ることは消費者としての立場であることを板書で視覚的に見えるようにしていく。 ・本時の最後に、話し合いを通して自分ができることを再度考えて書く時間をとるようにする。 <p>◆友だちと考えを交流することを通して、「日本の食料自給率はなぜ変わらないのか」について考えを深めている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>

7 実践を終えて

(1) 子どもとどのように単元をつくってきたか(本時まで)

学習の導入では、「2050年世界の人口が増えるとどんな困ることがあるかな。」という問いから始まった。子どもたちからは、「土地がなくなる」「ごみが増える」「争いが起きる」「食べ物が減る」

「環境破壊がさらに進む」などが出てきた。食べ物についての困り感についてたくさんでてきたこともあり、「食料生産が人口増加に追いつかない」という記事を提示した。その記事から、「自分たちが大人になったとき大変だ!」と考える子と「日本は、人口が減っていくし、大丈夫だろう。」と考える子に分かれた。そこで、日本の食品別の食料自給率が分かる図を見ていった。そこから、日本が多くの食品を輸入に頼っている現状にあることを知り、驚いていた。「どうしてそこまで食料自給率が低いのか。」「日本では作ることができていないのか。」「輸入できないことがおきたらどうしたらいいのだろう。」と一気に自分事になった子どもたちからは、たくさんの疑問であふれた。また、コロナウイルスの影響で実際に輸入がストップしている食品もあることに気づき、輸入ができなくなることは現実ですぐにおこりうることであると感じることができた。

(2) 本時での様子、今後の課題について

〈成果〉

- ・ 本時の学習問題は「なぜ色々取り組んでいるのに食料自給率が変わらないのか?」であった。学習問題については、コロナ禍の中で輸入がストップしてしまう可能性を実感しやすく、切実感が増し、「このままではいけない!」と自分事として捉えることができたため、良かったのではないかと思う。調べていく中で、取り組みはいろいろあり、新しい方法を模索している生産者も多い中で、それでもここ何年も食料自給率が上がらないのは、子どもにとっては大きな疑問となったと考える。
- ・ 既習事項を掲示物で残したり、重要なキーワードなどは毎時間確認してきたことで、既習事項を生かした考えの持ち方、話し合いができたと思う。疑問に思ったときに、「あのときはどうだったっけ?」とすぐにみんなで立ち止まることができる掲示物があることは、この授業だけでなく、普段からも大事であると思う。
- ・ 友だちの意見に対して、「確かにそうだね。」「でも～じゃん?」と自分の素直な考えを表現できる姿がたくさん見られた。自分の経験や総合での環境の学び、本単元で調べたことが生かされた話し合いになっていたと思う。

〈課題〉

- ・ 消費者である自分たち一人ひとりの一歩が大切であることは気づいているようであったが、なかなか話し合いが焦点化されなかった点が課題である。自分たちの一歩が大きな力となることが視覚的に感じられるような資料があるとより思いが高まったのではないかと思う。
- ・ 子ども同士で話し合い、考えを伝え合い、みんなで学び合おうという意欲は非常に高いので、話し合いの大切なポイントも自分たちで見つけ、「つまり、今日の問題ってこういうことなんだよね。」と子どもたちの言葉でまとめていけるとさらに、ひびき合う力がついていくのではないかと思った。